



一般社団法人日本環境教育学会
第 33 回年次大会(東京)

SDGs 時代の気候危機に対峙する 環境教育の役割

大会内容・プログラム

2022 年 8 月 25 日 (木) ～28 日 (日)

25 日・26 日 オンライン開催

27 日・28 日 対 面 開催

主催：一般社団法人日本環境教育学会

会場：東京農工大学 府中キャンパス

目次

1. 大会実行委員長挨拶.....	1
2. 開催概要.....	2
3. 大会日程.....	2
4. 会場について.....	3
5. 参加者のみなさまへ.....	6
6. 口頭発表について.....	7
7. ポスター発表について.....	9
8. 自主課題研究発表について.....	10
9. 大会参加者向け企画.....	11
10. 一般公開企画.....	12
11. 研究発表プログラム.....	15

[大会実行委員会名簿]

実行委員長	: 降旗信一	(東京農工大学)
副委員長	: 佐藤敬一	(東京農工大学)
事務局長	: 大倉茂	(東京農工大学)
本部事務局長	: 田開寛太郎	(松本大学)
会 計	: 岩松真紀	(明治大学)
大会プログラム	: 東方沙由理	(東京家政大学)
	: 田開寛太郎	(松本大学)
企画(本部企画委員長)	: 森高一	(日本エコツーリズムセンター)
広報・メッセ	: 谷萩真樹	(都留文科大学講師)
国際交流	: 飯田貴也	(新宿環境活動ネット)
	: 高橋宏之	(千葉市動物公園)
顧 問	: 朝岡幸彦	(東京農工大学)
	: 増本佐千子	(東京農工大学大学院・博士課程)
	: 坂倉浩幸	(東京農工大学大学院・博士課程)
	: 山本理	(東京農工大学大学院・博士課程)

1. 大会実行委員長挨拶

第 33 回年次大会（東京）実行委員長
降旗 信一

一般社団法人日本環境教育学会第 33 回年次大会（東京）は、2022 年 8 月 25 日（木）～28 日（日）に 25 日・26 日にオンラインで、27 日・28 日に対面で開催されます。対面開催の会場は東京農工大学農学部（府中キャンパス）です。

東京農工大学農学部は、1874 年に内務省勸業寮内藤新宿出張所に農事修学場（農学校）として設置されました。設置は日本の発展には農業の人材育成が欠かせないと考えた大久保利通公の強い意向によるものであり、大久保公は自身の功績に対する政府からの賞与 2 年分を当時の学生への奨学金として寄付したといわれています。その後、駒場農学校、東京帝国大学農科大学実科などを経て、東京高等農林専門学校となり、1949 年に東京農工大学の農学部となりました。

1973 年には全国で初めての環境保護学科が設置され、卒業生たちは行政、企業、学校、NGO・NPO など様々な機関・団体に就職し、それぞれの現場で環境保護の専門性を活かして活躍しました。1995 年には改組により環境保護学科は環境資源科学科と地域生態システム学科として再編され今日に至っています。その再編の際、それまで一般教育部にあった人文社会学系（法学、哲学、倫理学、教育学、経済学、歴史学、心理学など）の研究室は地域生態システム学科に参加することになり、ここに環境教育学研究室が生まれました。教育学研究室ではそれまで一般（共通）教育と教職教育の双方を担当してきたのですが、この改組を機に、環境教育学研究室では一般（共通）教育と学部専門教育を担当することになり、教職教育については別に教職専任教員のポストが設置されました。

ちょうどこの時期、長く教育学研究室をリードしてこられた千野陽一先生（故人・元日本社会教育学会会長）が定年退職となり、朝岡幸彦先生（教授・前日本環境教育学会会長）が環境教育学研究室のポストに着任されました。一方の教職専任教員は小島喜孝先生（教授）、南里悦史先生（教授）のあとをついで現在は降旗が担当しております。千野先生以来、社会教育の専門家が教職教育も担当してきたことから農工大の環境教育研究の特徴は、学校教育と社会教育・生涯学習を融合（相互発展）させる地域教育計画システムの開発に取り組んできたことにあると私は考えています。このような経緯で出発した東京農工大学の環境教育学研究室はその後、2000 年より修士課程、2001 年より博士課程の大学院生をそれぞれ受け入れるようになり、その卒業生は 100 名に達し、そのうち 10 名以上が大学教員として全国で活動しています。

日本環境教育学会の年次大会は 2009 年に続き 2 回目の開催となります。前回大会では本学会大会で初の「教員セミナー」が開催されました。今大会でも農工大らしさをご参加の皆様感じていただける大会になったらと願っております。どうぞ皆様のお越しをお待ち申し上げます。来学の際には大久保利通公の立派な記念碑もぜひご見学ください。

2. 開催概要

- 期間：2022年8月25日(木)～8月28日(日)
25日・26日はオンライン開催、27日・28日は対面開催
- 会場：東京農工大学府中キャンパス 及び オンライン (Zoom)
- 主催：一般社団法人日本環境教育学会 (第33回年次大会実行委員会)
- 協力：東京農工大府中キャンパス
- 後援：環境省、文部科学省、農林水産省、府中市、府中市教育委員会
ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター
- 一般社団法人日本環境教育学会第33回年次大会ウェブサイト
https://www.jsfee.jp/members/meeting/536-jsfee33_2022tokyo

3. 大会日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月25日(木)							自主課題研究(オンライン)				本部企画	
8月26日(金)		口頭発表(オンライン)				理事会(オンライン)	社員総会				本部企画	
	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月27日(土)	大会	口頭発表				大会企画 公開シンポジウム			会員懇談会			
	受付	ポスター発表			国際交流会							
8月28日(日)	大会	口頭発表				研究会			自主課題研究			
	受付	ポスター発表			教員セミナー							
		環境教育メッセ										

※公開シンポジウム、教員セミナー、環境教育メッセは、大会参加費をお支払いいただいた方以外の方も参加可能です。

<大会詳細>

8月25日(木) @オンライン

自主課題研究 = 14:30～17:00
本部企画 = 18:30～20:00

8月26日(金) @オンライン

口頭発表 = 9:30～12:05
社員総会 = 15:30～17:00
本部企画 = 18:00～20:00

8月27日(土) @東京農工大学

- 受付開始時間 8:00 (第一講義棟入口)
- 口頭発表 = 9:00~12:25
- ポスター発表 = 9:00~13:45 (コアタイム 12:00~13:00)
- 本部企画 = 9:00~12:00
- 環境教育メッセ = 9:00~16:00
- 国際交流会 = 12:00~13:45
- 「ストックホルム+50会議」と今後の環境教育の動向(仮題)
- 大会企画・公開シンポジウム = 14:00~16:30 / 参加無料
- 「気候危機に環境教育はどうこたえられるか—人新世における羅針盤の模索」
- 会員懇談会 = 16:30~17:30

8月28日(日) @東京農工大学

- 受付開始時間 8:00 (第一講義棟入口)
- 口頭発表 = 9:00~12:2
- ポスター発表 = 9:00~13:45 (コアタイム 12:00~13:00)
- 環境教育メッセ = 9:00~15:00
- 教員セミナー = 12:00~13:45
- 研究会 = 14:00~16:00
- 自主課題研究 = 16:15~18:15

4. 会場について

オンライン会場 (8月25日・26日)

- ・本大会ではオンライン会議システム ZOOM を使用します。ご自身のパソコン、タブレット、スマートフォンからインターネットに接続いただきご参加ください。
- ・パソコンの操作、インターネット接続、映像・音声等については事前にご自身でご確認ください。(右記のリンク先でログインテストができます: <https://zoom.us/test>)
- ・オンライン大会への参加にかかる通信料等、別途発生する費用については各自でご負担ください。
- ・ミーティンググループはセッションごとにミーティング ID が割り振られます。参加者に直接送付されるミーティング ID とパスコードを確認し、入力してください。
- ・ミーティンググループに入室する際は、ZOOM 上で表示される名前を「氏名(ご所属)」と設定してください。

対面会場 (8月27日・28日)

＜東京農工大学 府中キャンパスへのアクセス＞



最寄駅からバス利用の場合
 JR 中央線 国分寺駅
 国分寺駅南口発 府中駅行 (寺 91)
 晴見町 下車
 京王線 府中駅
 府中駅発 国分寺駅行 (寺 91)
 晴見町 下車

JR 武蔵野線「北府中駅」から徒歩約 12 分
 会場までは公共交通機関をご利用ください (駐車場のご用意はございません)

＜東京農工大府中キャンパス 校内図＞

教員セミナー会場
 ②2号館・新2号館

対面会場
 ⑩本館
 ⑪第一講義棟

①1号館
 ②2号館・新2号館
 ③3号館
 ④4号館
 ⑤5号館
 ⑥6号館
 ⑦7号館
 ⑧8号館
 ⑨9号館
 ⑩農学部本館・科学博物館分館
 ⑪農学部第1講義棟
 ⑫農学部第2講義棟
 ⑬府中図書館
 ⑭新4号館
 ⑮動物医療センター
 ⑯硬質白炭利用研究施設
 ⑰府中体育館
 ⑱総合屋内運動場
 ⑲福利厚生センター
 ⑳スポーツ健康科学棟

㉑大学院連合農学研究科管理研究棟
 ㉒共同先進健康科学専攻棟
 ㉓運動場附属施設(ゴルフ練習場)
 ㉔学生系事務棟(グローバル教育院府中オフィス)
 ㉕本部管理棟
 ㉖保健管理センター
 ㉗武蔵野荘・50周年記念ホール
 ㉘農学部 R I 研究室
 ㉙清伝子実験施設
 ㉚広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター
 ㉛先進植物工場研究施設
 ㉜乳牛舎

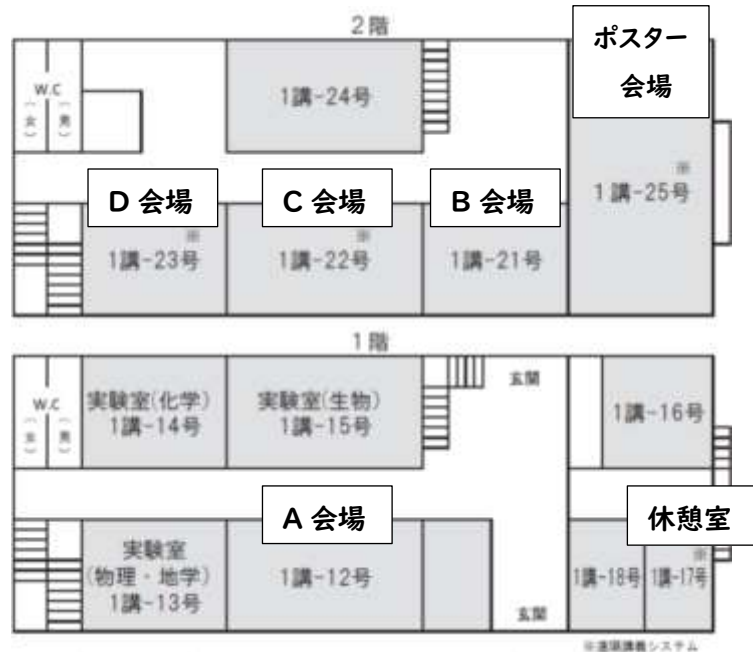
㉝府中国際交流会館
 ㉞学生寄宿舎(楓寮)
 ㉟府中第2寄宿舎(職員寄宿舎)
 ㊱府中第3寄宿舎(職員寄宿舎)
 ㊲府中第4住宅(職員寄宿舎)
 ㊳農工夢市場・附属センター事務室
 ㊴教舎
 ㊵学生寄宿舎(検査)

<発表会場>

①第一講義棟 (右図)

使用会場

- 1 講 - 12 号 A 会場
 - 1 講 - 17 号 休憩室
 - 1 講 - 18 号 本部関係者控室
 - 1 講 - 21 号 B 会場
 - 1 講 - 22 号 C 会場
 - 1 講 - 23 号 D 会場
 - 1 講 - 25 号 ポスター会場
- 自主研究課題①
- 自主研究課題②



⑩本館 (右図)

使用会場

本館 - 21 号 国際交流会

※本部企画・シンポジウム・
会員懇談会の会場は
本館講堂 (1階) です



②2号館・新2号館

使用会場

2N-103 (多目的教室) 教員セミナー

5. 参加者のみなさまへ

オンライン参加

- ・オンラインでの参加を希望される方は、実行委員会が定める発表方法、及び聴講方法にしたがってください。オンライン大会での発表に際してトラブル等が生じて、日本環境教育学会はその責任を負いません。
- ・発表中の映像・音声・テキストログ等を発表者に無断で録画・録音・スクリーンショットしないでください。また、SNS への投稿等による第三者へ開示は禁止とします。
- ・チャット機能の使用および発表中の質問については、各セッションの座長の指示に従ってください。
- ・接続数に限りがあるため、複数のデバイスを使っての同時接続はしないでください。
- ・円滑な進行を妨げる行為があった場合、座長、サポートスタッフの判断で、参加者のマイクやカメラ、画面共有などを強制的に off にする場合があります。ご了承ください。

対面参加

●全般について

- ・大会受付は8月27日（土）～28日（日）、東京農工大学府中キャンパスの第一講義棟の入口に設置いたします。参加者は必ずここで受付をしてください。
- ・受付では新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、入館される方に対し、非接触型体温計による検温を実施します。検温にご理解、ご協力をお願いします。
- ・大会受付にて参加表（名札）をお渡しいたします。会場内では必ず身に付けてください。
- ・大会開催期間中は、会場以外の建物および教室に出入りすることはできません。
- ・シンポジウムの参加者はシンポジウムの開始前に検温を実施します。検温にご理解、ご協力をお願いいたします。
- ・会場内は全面禁煙です。喫煙スペースはございませんので、予めご了承ください。

●ご宿泊について

- ・宿泊先は各自でお手配ください。実行委員会では予約、あっせん等の手配はいたしません。お早めの宿泊場所をお願いいたします。

●お食事について

- ・大会開催期間中は東京農工大学の食堂は利用できません。昼食はご自身でお手配ください。
- ・昼食は会場内および休憩室にてお召し上がりいただくことが可能です。ただし口頭発表の会場では、昼休憩時（12:30～14:00）のみ飲食が可能です。
- ・休憩室に湯茶等の用意はございません。校内の自動販売機や給水スポットをご利用ください。ボトル等をご持参ください。
- ・ゴミは各自でお持ち帰りください。

●その他

- ・クロークはございませんので、休憩室を荷物置き場としてご利用ください。ただし貴重品等は各自が携帯し、絶対に休憩室内に置かないようにしてください。

6. 口頭発表について

オンライン発表

(事前準備)

- ・セッションごとに ZOOM のミーティング ID が割り振られます。参加者に送付されるミーティング ID とパスコードを確認し、入力してください。
- ・ミーティングルームに入室する際は、ZOOM 上で表示される名前を「【発表者】氏名(ご所属)」の順に入力してください。例：【発表者】農工太郎(東京農工大学)
- ・接続速度が十分確保できる通信環境での接続を心がけてください。
- ・ヘッドセットあるいはマイク付きイヤホンをお持ちの場合は、それらの使用をお勧めします。
- ・下記リンク先にてログインテストが可能です。事前に音声等の確認をお願いいたします。

<https://zoom.us/test>

(発表者)

- ・口頭発表は ZOOM を用い、発表していただきます。
- ・発表者は自身の発表時間の 5 分前までには必ずミーティングルームに入室してください。
- ・入替時間・動作確認に 5 分時間を取っています。サポートスタッフの指示に従い、カメラ・マイクのチェック、発表資料の画面共有等を確認してください。
- ・発表時間は 15 分(発表 12 分、質疑 3 分)で進行します。
- ・発表中の合図は以下の通りです。

第 1 鈴 10 分

第 2 鈴 12 分(発表時間終了です。直ちに発表を終了してください。)

第 3 鈴 15 分(質疑終了です。カメラとマイクをオフにしてください。)

- ・発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまでミーティングルームに待機してください。

(参加者)

- ・ミーティングルームに入室する際は、ZOOM 上で表示される名前を「氏名(所属)」の順に入力してください。

- ・発表を聴く際はカメラとマイクはオフにしてください。
- ・チャット機能の利用については座長の指示に従ってください。
- ・質疑応答を行う時は、リアクションボタン（手を挙げる）をクリックしてください。座長より指名された後、カメラとマイクをオンにして質問してください。
- ・円滑な運営にご協力ください。

（座長のみなさま）

- ・座長はセッション全体を担当していただきます。発表から総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。
- ・セッションを開始する前に、チャット機能の利用の可否について明言してください。
- ・進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。
- ・質問者には、はじめに氏名と所属を述べさせてください。
- ・討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

対面発表

（事前準備）

- ・発表は、発表者がPC・タブレットを持ち込んでください。会場でのPC貸出の準備はございません。プロジェクターの接続は、HDMI端子を使用しますので、HDMI端子を使用できる環境をご用意ください。
- ・PCの操作は発表者の責任で行ってください。
- ・念のためPowerPoint等のスライドデータは、USBメモリに入れて当日ご持参ください。ご持参するUSBメモリは、ご自身でウイルスチェックをお願いします。
- ・発表者は入替時間・動作確認に接続確認を行ってください。

（発表者）

- ・発表者は1つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機しててください。
- ・発表者ははじめに発表タイトルと発表者名を述べてください。
- ・口頭発表のスライドなどの撮影可否については、発表者がご自身で、発表前にその旨お伝えください。
- ・発表時間は15分（発表12分、質疑3分）で進行します。
- ・発表中の合図は次の通りです。

第1鈴 10分

第2鈴 12分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください。）

第3鈴 15分（質疑終了です。次の発表者と交代してください）

- ・発表者はそれぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機してください。

(座長のみなさま)

- ・座長はセッション全体を担当していただきます。発表から総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。
- ・進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。
- ・質問者には、はじめに氏名と所属を述べさせてください。
- ・討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

7. ポスター発表について

(事前準備)

- ・発表者は27日(土)の9:00までに所定の位置にポスターを掲示してください。
- ・ポスターの展示スペースは、1件につきA0サイズ1枚です。
(縦:1189mm×横:841mm、模造紙サイズ<1090mm×790mm>も可)
- ・ポスター貼り付け用の画鋏とテープは、大会実行委員会で準備いたしますので、それらをご使用ください。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。
- ・発表用ポスターの撮影を禁止する場合は、発表者ご自身でその旨を掲示してください。

(発表者)

- ・発表者は質疑応答のため、27日(土)28日(日)のコアタイム(12:00~13:00)に、ポスター前で待機してください。少なくとも1日は質疑応答に立ってください。
- ・コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。

(後片付け)

- ・28(日)の13:45~14:00に各自ポスターを取り外して撤収を完了してください。
- ・撤収時間を過ぎて掲示されているポスターは、実行委員会で処分いたします。保管はいたしませんので、ご了承ください。

8. 自主課題研究発表について

- ・25日（木）はオンライン、28日（日）は対面で行います。
- ・発表時間はオンライン150分、対面120分です。
- ・オンラインは1件ごとにミーティンググループが設けられます。参加者に送付されるミーティングIDとパスコードを確認し、入力してください。
- ・対面の会場設営および進行等の運営はすべて企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。
- ・代表者及びメンバーが責任をもって進行してください。
- ・終了時間は厳守でお願いします。

オンライン

日時：8月25日（木）14:30~17:00

- ① 社会対話「環境カフェ」の実践——気候変動をテーマに
○多田 満（国立環境研究所）
- ② 質的研究法を学ぶ「質的研究のデザインと今後の展開」
○高橋 宏之（千葉市動物公園）・浜泰一（東京大学）
- ③ 総合的な学習の時間から総合的な探究の時間へ —「環境探究学研究会」の挑戦と探究学習の未来—
○長濱 和代（日本経済大学）
- ④ 戦争・原発と環境教育のあり方～ウクライナ情勢を踏まえて～
○後藤 忍（福島大学）

対面

日時：8月28日（日）16:15~18:15

会場：A会場（1講-12号）

- ① 先進事例に見る高等学校の地域協働—ガイドライン作成に向けて—
○荻原 彰（京都橘大学）

会場：C会場（1講-22号）

- ② ESDfor2030における行動変容、社会変容と批判的環境教育の再評価
○野田 恵（法政大学）

9. 大会参加者向け企画

●本部企画（会場：25日26日はオンライン・27日は本館講堂）

日時：8月25日（木）18:30~20:00

学会のダイバーシティを考えるワークショップ

日時：8月26日（金）18:00~20:00

編集委員会／倫理委員会

日時：8月27日（土）9:00~12:00

小中学生によるカーボンニュートラルな社会づくり提案プロジェクト

「2050年の社会とわたしたちの暮らし」

●国際交流会

日時：8月27日（土）12:00~13:45

会場：本館-21号+ オンライン

テーマ：「ストックホルム+50会議」と今後の環境教育の動向」（仮題）

例年はランチミーティングとして、お昼を取りながら自己紹介をしたり、議論をかわしたりする場でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下の通りに行います。

12:00~12:50 各協定学会のみなさまからの近況報告

対面で参加されるみなさまにはこの時間に黙食をしていただきます

12:50~13:45 質疑応答や意見交換・議論の時間

マスクをしていただいて議論に臨んでいただきます

対面参加者の方は、ご協力お願いいたします。

オンラインの参加の方は、参加者に送られましたIDとパスワードをご確認ください。

●英語報告部会

本大会では8月28日（日）の口頭発表内（11:40~12:25）に、すべてを英語によって進行する「英語報告部会」を設定します。発表形式は口頭発表と同様、口頭発表・質疑応答・総合討論です。

英語で発表される参加者だけでなく、会員の皆様にも積極的に英語報告部会にご参加ください。詳しくは研究発表プログラム内（p.22）をご覧ください。

●研究会

日時：8月28日（日）14:00～16:00

会場：A会場（1講-12号）

「SDGsの教育」研究会／朝岡 幸彦（東京農工大学）

会場：B会場（1講-21号）

「原発事故後の福島を考える」研究会／石山 雄貴（鳥取大学）

会場：C会場（1講-22号）

「公害教育」研究会／高田研（都留文科大学）

会場：D会場（1講-23号）

「環境教育プログラムの評価」研究会／中口 毅博（芝浦工業大学）

会場：ポスター会場（1講-25号）

「気候変動教育」研究会／白井 信雄（武蔵野大学）

●会員懇談会

日時：8月27日（土）16:30～17:30

会場：本館講堂

10. 一般公開企画

●大会企画・公開シンポジウム

日時：8月27日（土）14:00～16:30

会場：本館講堂 + オンライン

テーマ：「気候危機に環境教育はどうこたえられるか―人新世における羅針盤の模索」

プログラム

挨拶：中村 和彦（東京大学・日本環境教育学会会長）

趣旨説明：司会兼パネリスト：大倉茂（東京農工大学・大会実行委員会事務局長）

セッション：

報告1「人新世と環境・気候正義(仮題)」

大倉 茂(同 上)

報告2「社会と人の転換を連動させる気候変動教育の規範と普及について(仮題)」

白井 信雄(武蔵野大学・「気候変動教育」研究会代表)

報告3「韓国における気候変動教育の取組みについて(仮題)」

キム・チャングック(韓国教員大学 環境教育学科 教授)

【趣意文】

人新世が話題である。人新世は、公害、環境問題など環境をめぐる危機に対してさまざまな言葉が使われてきたが、その総決算とっていい言葉である。この言葉の含意のなかでも特に重要だと思われるのは、自然環境はそのティッピング・ポイントを超えたということにある。言い換えれば、人為によって自然環境が復元可能な点、あるいは可逆的な点を超えており、自然環境の挙動が不安定さを増してくることを意味している。われわれはもはやそういった時代を生きることが求められている。ESD や SDGs のための教育の前提になっているのは持続可能性だが、これまで社会で共有されていた持続可能性そのものの反省が求められているのである。

その自然環境の不安定さを顕著に表しているのが、気候である。気候の挙動の不安定さを端的に表している言葉が、気候変動である。気候が安定的に推移していたフェーズをこえて、気候が不安定な挙動を示すフェーズにはいつている。それが昨今の水害などの自然災害にはっきりとあらわれているとってよいだろう。これまでの安定的な気候を前提とした生活を前提とすることができなくなっている。

不安定さのなかで、持続可能性どころか、持続性そのものが問われている現代社会において、環境教育になにが求められているのか。そして、その求めに対して、環境教育はどうこたえられるのか。こういった問いを参加者の皆さまと共有できれば幸いである。

●教員セミナー

講師：佐藤 敬一（東京農工大学）

日時：8月28日（日）12：00～13：45

会場：2号館多目的教室

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための協同学習の理論と実践を体験します。また、環境教育では自然体験や社会体験などの体験学習が効果的に行われますが、体験だけでは終わらせず、循環学習プロセスとして、「ふりかえり」「わかちあい」を重視する必要がありますが、短い時間で効率よく行う場合に協同学習は優れています。アメリカでは Kagan Cooperative Learning が広く学校教育に普及しています。この協同学習は従来の教師から生徒への一方的な授業ではなく、また、単なるグループワークでもありません。協同学習の4つの原理、すなわち、互恵的な相互依存、個人の責任、平等な参加、活動の同時性を全て満たさなければなりません。本セミナーでは実践を通して、協同学習の本質を理解して頂きます。本セミナーは無料ですが、昨年出版された、「ケーガン協同学習入門」スペンサー・ケーガン著大学図書出版発行（定価1,870円）をテキストとして使用します。お持ちの方はご持参ください。当日に割引で購入もできます。

教員セミナー参加希望者の方は、後日メールでご案内する Google フォームから参加お申込みをお願いします。定員は36名です。

●環境教育メッセ

日時：8月27日(土) 9:00~16:00、28日(日) 9:00~15:00

会場：第一講義棟 1階フロア

3年ぶりの対面開催にあわせて、「環境教育メッセ(環境教育見本市)」を開催いたします。

各団体の紹介・活動と大会参加者・学会員とのコミュニケーションの場としてご活用ください。

出展団体(五十音順)：

NPO 法人ビーグッドカフェ、株式会社学文社、株式会社ニホン・ミック、
公益社団法人日本環境教育フォーラム、株式会社筑波書房、包み屋、一般社団法人農
山漁村文化協会

- ・新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください。
- ・環境教育メッセ会場での火気使用、飲食物の提供はできません。
- ・販売に関しては、各団体の管理の下トラブルのないようお願いします。

11. 研究発表プログラム

●口頭発表

※登壇者（筆頭者）として登録された 1 名のみ氏名を掲載しています。

26 日（金）オンライン：9:30～10:45

会場	テーマ	9:30～	9:45～	9:50～	10:05～	10:10～	10:25～	10:30～
A	教育活動・環境カフェ	[26A01] 飯尾美行 「地球にやさしいエンジニア」を目指し”共感の輪”を拡げる環境教育活動ー工業高校における30年間の実践的環境活動を通してー		[26A02] 多田満 クライメート・ユース・ジャパン (CYJ) における「環境カフェ」の実践——気候変動をテーマに		総合討論		
B	活動分析	[26B01] 松田剛史 学生を主体とするアースデイ活動への取り組み	入替時間	[26B02] 中口毅博 小中高および大学生の社会活動経験の有無に関する分析	入替時間	[26B03] 栗原智美 都内高校生における野外炊事と環境意識の違いから防災教育の可能性を探る	総合討論	総合討論
C	幼児	[26C01] 仙田考 保育者養成校における園庭マップ作成の試みに関する一考察～幼保小接続期を踏まえて：領域環境から生活科へ	動作確認	[26C02] 遠藤晃 プロジェクト「掘ったイモはどんなイモ？」：2. 幼児の資質・能力を見出す環境設定と保育者・教育者のセンス	動作確認	[26C03] 遠藤隼 里山環境を活用した幼児向け生きもの探しプログラム～3年間の実践と評価～	総合討論 準備	総合討論
D	自治体・行政の取組	[26D01] 花嶋温子 日本の環境教育のもう一つのはじまりであるごみ処理施設の見学について		[26D02] 高橋正弘 北海道の基礎自治体における環境教育の志向について		[26D03] 福永百合 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大による教育行政の対応に関する調査研究		総合討論

26日(金) オンライン: 10:50~12:05

会場	テーマ	10:50~	11:05~	11:10~	11:25~	11:30~	11:45~	11:50~		
A	科学・美術	[26A03]後藤忍 東京電力福島第一原子力発電所事故前後の原子力・放射線教材等に関するパネル展の実施と来場者へのアンケート	入替時間 動作確認	[26A04]畑田彩 科目横断型の環境教育を目指して－国連子ども環境ポスターを活用した鑑賞教育－	入替時間 動作確認 総合討論準備	[26A05]森谷昭一 環境美学の諸相と環境教育	総合討論準備	総合討論		
		[26B04]矢動丸琴子 日本人の若者を対象とした生物多様性への意識の現状と情報普及に関する検討		[26B05]本田裕子 野生復帰と環境課題とが地域内で両立する可能性について		[26B06]LI SICONG 流域NCP (Nature's Contributions to people)の向上を目指した関係価値の把握とその評価手法－岩手県閉伊川における水圏環境教育プログラムへの応用可能性		総合討論		
C	伝統・文化	[26C04]小栗有子 環境教育研究としての「土着知」の見える化と世代間継承		[26C05]溝田浩二 環境教育の視座からみた養蜂－ミツバチ種の違いに着目して		総合討論準備		総合討論	総合討論準備	総合討論
		[26D04]鳥屋尾健 国を超えたonline双方向型研修の現在地～コロナ禍での中国、中南米との研修実践から～		[26D05]長濱和代 持続的な自然資源利用と管理に関する考察－ウクライナ人留学生の受け入れによる自然観の相違から		[26D06]李婉 日中の大学生の森林に対する知識・態度・行動の特徴と関係性				
D	海外	[26D04]鳥屋尾健 国を超えたonline双方向型研修の現在地～コロナ禍での中国、中南米との研修実践から～						総合討論		

27日(土) 対面：9:00～10:05

会場	テーマ	9:00～	9:15～	9:20～	9:35～	9:40～	9:55～
A	ESD	[27A01]萩原豪 温泉をテーマとした ESD展開の検討	入替 時間 動作 確認	[27A02]岡健吾 ESDとしてのアイヌ 文化学習の可能性	入替 時間 動作 確認	[27A03]浅岡永理 単独自治体型ユネス コエコパークにおけ るESDの現状	総合討論
B	公害	[27B01]林美帆 学びの場としての 「みずしま地域カ フェ」と公害資料館		[27B02]小野瀬剛志 公害教育研究におけ る社会構造の問題と 資本主義—素材と体 制の理論による公害 理解の可能性—		総合討論	
C	森林教育	[27C01]川村蒼太 協同学習を取り入れ た森林ESDの実践と 児童のソーシャルス キル向上の効果		[27C02]板倉浩幸 小学校における森林 ESDの成立 —北海 道上川総合振興局下 川町を事例に—		[27C03]井上真理子 持続可能な森林の保 全と利用を考える 「森林計画」教育プ ログラムの開発と実 践—高等学校の専門 科目「森林経営」 (教科「農業」)を 対象に—	総合討論
D	動物	[27D01]野村卓 動物園の4機能の体 系化を図る動物園教 育の検討-調査研究 機能と教育機能の連 携事例をとおして-		[27D02]河村幸子 学校飼育動物を支え る地域組織の現状と 課題		[27D03]小野瑞果 人と動物の共通感染 症対策と動物福祉— 動物園と学校飼育動 物を例として—	総合討論

27日(土) 対面：10:10～11:15

会場	テーマ	10:10～	10:25～	10:30～	10:45～	10:50～	11:05～
A	特色教材	[27A04]太田貴大 人と自然との関係性に注目した自然共生教育の可能性：養蜂の活用を事例として	入替 時間 動作 確認	[27A05]竹野健次 日本酒の醸造用地下水の重要性を学習する中学校用環境教育教材の開発	入替 時間 動作 確認 総合討論 準備	総合討論	総合討論
B	対話・参加・協働	[27B03]二ノ宮リム さち 持続可能性を取り巻く対立を乗り越える～対話の文化を育む教育とは		[27B04]金澤伸浩 リスクを理解しやすいリスクの定義と教育の実践例		[27B05]森朋子 シビック・アクション促進に資する環境教育プログラムの開発～導入フェーズの設計と効果～	
C	防災教育	[27C04]齊藤雅洋 ESDとしての防災教育の原理的考察		[27C05]山崎博史 通時的思考と防災教育：長時間スケールでみた土砂災害の反復性		総合討論	
D	博物館	[27D04]林浩二 ICOM規約の博物館定義の改定、博物館法一部改正と環境教育		[27D05]山本理 学校理科教育と自然科学系博物館との連携に関する研究		総合討論	

27日(土) 対面：11:20～12:25

会場	テーマ	11:20～	11:35～	11:40～	11:55～	12:00～	12:15～
A	地域	[27A07]岩本泰 地域とつながる「関係人口」創出の意義と可能性についての研究－持続可能性の観点から	入替 時間 動作 確認	[27A08]中澤朋代 地域づくり観光に見出す環境教育	入替 時間 動作 確認	[27A09]荻原彰 先進事例に見る高等学校の地域協働	総合討論
B	自治体	[27B06]内藤光里 京都市における環境活動の共創		[27B07]高雄綾子 ドイツの「ESD自治体」におけるガバナンスの類型化		[27B08]元木理寿 環境教育・ESDの視点からみたごみ集積所	総合討論
C	幼児期	[27C06]小山献冬 秋田県における幼児期の自然体験の現状とその頻度に関わる要因		[27C07]田中住幸 自然保育の現状と展望		[27C08]増田直広 幼児環境教育における環境観を育てるインタープリテーション	総合討論
D	メディア調査	[27D06]原賀いずみ 少年誌というメディアから見た明治期の児童文化運動と動物園教育・博物館教育の萌芽		[27D07]佐々木啓 新聞記事にみるビクターセンターに対する認識の変遷		総合討論	

28日(日) 対面：9:00～10:05

会場	テーマ	9:00～	9:15～	9:20～	9:35～	9:40～	9:55～
A	気候変動	[28A01]藤岡達也 気候危機及びエネルギー危機に対峙するSTEAM教育の視点を取り入れた環境教育への期待	入替 時間 動作 確認	[28A02]野口扶美子 気候難民と教育へのアクセスの権利に関するインドの事例研究	入替 時間 動作 確認	[28A03]松井晋作 気候変動教育における日本と韓国の捉え方	総合討論
B	世代・行動	[28B01]新田和宏 気候危機とZ世代に対応する環境教育：日本環境教育史研究V		[28B02]櫃本真美代 世代間による環境的行動要因に関する考察		[28B03]野田恵 環境教育における「行動変容」と「社会変容」の論点整理ーナッジ理論との差異を手掛かりに	総合討論
C	コロナ	[28C01]李聡 「学校臨時休業における教育委員会と学校の対応に関する研究ー長野県飯田市を事例に」		[28C02]小泉伸夫 ワンヘルスに基づく「withコロナ」時代の自然観察イベント作り		[28C03]中村和彦 次世代の自然風景地の保護と利用に向けた森林映像・音声オンライン配信の活用可能性	総合討論
D	自然体験	[28D01]三島孔明 自然遊び体験後の親及び自身の子どもの自然遊びに対する意識		[28D02]森元真理 虫と暮らしとをつなぐ遊びのデザイン - 保育者による評価に基づいたデザインに向けて-		総合討論	

28日(日)対面:10:10~11:15

会場	テーマ	10:10~	10:25~	10:30~	10:45~	10:50~	11:05~
A	小学校	[28A04]飯沼慶一 小学校低学年の環境教育と生活科の誕生		[28A05]鈴木千花 自然体験活動の事前学習としての土壌教育の効果		[28A06]立花禎唯 水文化教育の構想と実践(その17)ー中間のまとめとしてー	総合討論
B	デジタル活用	[28B04]原理史 ユースのESDにおけるデジタルアース活用の試み	入替時間 動作確認	[28B05]岩崎慎平 スマートクロックを用いた幼児施設におけるFor型環境教育実践の可能性	入替時間 動作確認	[28B06]田開寛太郎 VR教材を用いた環境教育プログラム開発のための予備的調査	総合討論
C	草の根	[28C04]大島順子 世界自然遺産地域における気候変動教育としての市民によるフェノロジー調査		[28C05]秦範子 脱炭素社会に向けた持続可能な地域づくりとは:トランジション・タウンを事例に		総合討論	

会場	テーマ	10:00~	10:10~	10:25~	10:40~	10:55~
D	奨励賞審査	動作確認	[28D03]岸本麻衣子 自然体験活動での子どもの探究力の分析における実践研究	[28D04]西愛未 ヒト・動物・環境の関係についての俯瞰的理解を育成する理科教育プログラムの実践報告	[28D05]谷萩真樹 農村における持続可能な地域づくりに向けた住民の学習ー農村ツーリズムに着目してー	[28D06]中村拓磨 中山間地域の小規模宿泊施設における教育機能に関する研究ー長野県飯田市遠山郷のゲストハウスを事例にー

※奨励賞審査の方は全員セッション開始前に動作確認を終えてください。

28日(日)対面:11:20~12:25

会場	テーマ	11:20~	11:35~	11:40~	11:55~	12:00~	12:15~	
A	中学校・高等学校	[28A07]宇都宮俊星 科学技術社会における意思決定・合意形成に関する生徒の資質・能力の評価ー評価基準・評価尺度の開発のための基礎的検討ー	入替時間 動作確認	[28A08]大塚啓太 生徒が持つ環境教育に関する学習観と自然への愛着との関連 --都内高校を対象事例とした予察的検討--	入替時間 動作確認	総合討論	/	
B	大学・教員養成	[28B07]林隆紀 大学環境教育におけるe-ラーニングコンテンツ導入効果		[28B08]佐藤秀樹 大学生の環境学習プログラムの企画立案を通じた環境保全の取り組みに関する考察		[28B09]日高翼 分類基準を見出すことから始める環境を捉える視点の醸成		総合討論
C	企業・海外	[28C06]筒井雪美 三井物産「サス学」アカデミーの学校への導入と効果の検証		[28C07]福井智紀 環境配慮の視点を導入した就職活動における意思決定の支援:学習プログラム・企業分析ツールの開発		[28C08]若林身歌 ドイツにおける環境教育の展開とエコロジー・教育学の主張		総合討論
D	英語報告	/		[28D07]Roger C. BAARS Fostering Climate Action – The Role of Affect in Environmental Education		[28D08]Sun-Kyung Lee A Case of Ecological Education linked to the Curriculum through Whole School Approach in an Elementary School in Korea		総合討論

※英語報告はオンラインでの参加が可能です。

●ポスター発表

※登壇者（筆頭者）として登録された 1 名のみ氏名を掲載しています。

27 日（土）・28 日（日）9:00~13:45（コアタイム 12:00~13:00）

<会場：第一講義棟-25号>

- P01 アブドラブアルナビ シャハド：環境教育のための草木染め活用 1
—外来植物を用いた草木染の実践—
- P02 ムラド ホダ ワリードエム：環境教育のための草木染の活用 2
—オオキンケイギクを中心とした花染の実践—
- P03 虎澤亨祐：環境教育のための草木様の活用 3
—簡易的な方法論及び染料長期保存の確立—
- P04 井村礼恵：幼児期における SDGs 教育についての検討～絵本を活用した実践を
中心に～
- P05 斉藤千映美：小学校生活科における動物ふれあい学習—実践と課題
- P06 高瀬和也：「わかっているけどできない」に着目した環境配慮行動に関する先行研
究の分析—子ども向け環境学習プログラムの開発に向けて
- P07 齊藤由倫：自治体のごみ減量担当部署が行う環境学習関連施策
- P08 山本康介：地域教育としての森林環境教育—熊野木育プロジェクトを対象として
- P09 陳棟：小水力発電に関する現状の把握と分析
- P10 祝佩銘：中国の大気環境改善政策
- P11 酒井佑輔：ブラジル先住民の抵抗と思想から環境教育を考える
- P12 吉澤樹理：アリの採集と分類から、地域環境を考える～小学生対象子ども科学教室
から～
- P13 江田慧子：絶滅危惧種蝶類における環境教育教材の開発
- P14 阿河真人：生物多様性地域戦略市民案は行政の生物多様性地域戦略策定を加速で
きるか？～東京都江東区での活動報告～
- P15 加藤美由紀：校内の植生調査の教材化—PC を用いた教材の開発と中学校での実践
—
- P16 塩瀬治：学校屋上で行った江戸東京野菜の栽培についての考察

問合せ先

一般社団法人日本環境教育学会第33回年次大会（東京）実行委員会事務局

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学大学院農学研究院環境倫理学研究室内

E-mail tokyo2022.jsfee@gmail.com

※お問合せ・ご連絡はメールでお願いいたします

一般社団法人日本環境教育学会第33回年次大会（東京）ウェブサイト

https://www.jsfee.jp/members/meeting/536-jsfee33_2022tokyo

一般社団法人日本環境教育学会事務局

株式会社インフォテック内

〒206-0033 東京都多摩市落合2-6-1

電話 042-311-3355 ファクス 042-311-3356 E-mail office@jsfee.jp

一般社団法人日本環境教育学会ウェブサイト <http://www.jsfee.jp/>